

帝劇

第八十四號

昭和四年十一月

卷 頭 談

帝劇興行御案内

帝劇十一月興行御案内

奥村五百子

攝州合邦辻

三人吉三

英雄と女傑

「奥村五百子」上演に就いて

奥村五百子について

「合邦」のはなし

「合邦」について

「合邦」に就いて

玉手御前の血で如何して癩病が癒つたか

「三人吉三」の沿革

「三人吉三」に就いて

八百屋お七

玉手御前

三人吉三の狂言

山 本 專 務

(一)

(二)

(三)

(四)

子爵 小 笠 原 長 生 (九)

小 野 賢 一 郎 (一五)

梅 谷 松 太 郎 (一七)

谷 口 梨 花 郎 (一三)

岡 榮 一 郎 (一六)

伊 原 青 々 園 (一七)

穂 坂 孝 松 (一八)

松 本 龜 藏 (一三)

伊 坂 梅 雪 (一四)

伊 坂 梅 雪 (一四)

尾 上 梅 幸 (一四)

松 本 幸 四 郎 (一五)

高杉晋作とお嬢吉三

默阿彌翁の代表作

昭和になつての初御目見得

セゴヴィア氏ギター大演奏會

セゴヴィア氏大演奏會演奏曲目

セゴヴィア氏演奏曲目解説

ミゲエル・フレタ氏聲樂大演奏會豫告

新築地劇團第五回帝劇公演豫告

古今藝談思出草(其十九)

電燈と劇場

嘗て帝劇に來演せる海外大藝術家消息

海外劇界ニュース

獨逸劇場消息

ソウエートロシアの歌劇舞踊界

新築地劇團第四回帝劇公演新聞評

帝劇十月興行新聞評抜萃

消息日誌

澤 村 宗 十 郎 (一四)

守 田 勘 彌 (一五)

片 岡 我 當 (一六)

武 井 守 成 (一五)

武 井 守 成 (一五)

伊 坂 梅 雪 (一六)

山 口 松 三 郎 (一七)

伊 坂 梅 雪 (一六)

藤 澤 周 次 (一)

香 匠 谷 英 一 (一五)

中 根 弘 (一七)

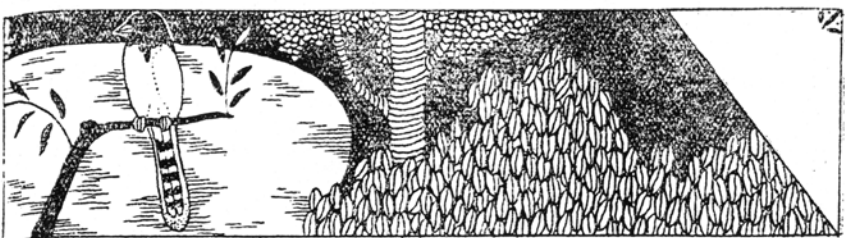
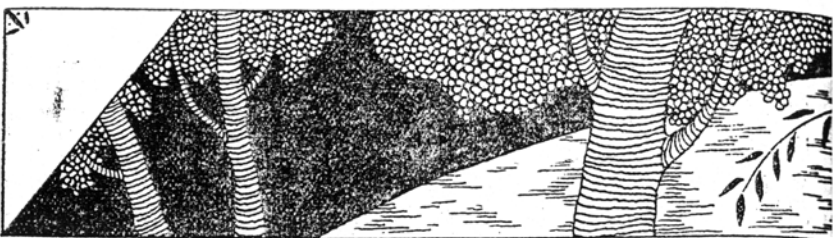
新築地劇團第四回帝劇公演新聞評 (九)

帝劇十月興行新聞評抜萃 (五)

消息日誌 (元)

表 紙

井 上 弘 範



家大ータギ的界世
氏アィヴゴセ・スレドンア

會奏演大劇帝

間日三日八廿七廿六廿月十

更變目曲回毎・演開時七夕毎



圓三金・圓五金・圓八金・料場入御

第一夜(十月二十六日・土曜日)

- 一、(イ) 西班牙の浮かれ者……………フェルディナンド・ソル(一七七八?—一八三九)
 (ロ) 小夜樂……………ホアキン・マラツツ(一八七二—一八九×?)
 (ハ) 舞 曲……………モレーノ・トルロバ
 (ニ) アルレグロ・トランクォロ……………ニコロ・バガニーニ(一七八二—一八四〇)
 (ホ) 練習曲……………フランシスコ・タルレガ(一八五四—一九〇九)
 二、(イ) フーガ……………ヨハン・セバスティアン・バッハ(一六八五—一七五〇)
 (ロ) ガヴォット……………同
 (ハ) サラバンド……………同
 (ニ) ブーレ……………同
 (ホ) メヌエツト……………フランツ・ヨーゼフ・ハイドン(一七三二—一八〇九)

休 憩

- 三、(イ) ファンダンギリオ(セゴヴィアに捧ぐ)……………ホアキン・トゥリーナ(一八八二—)
 (ロ) 民謡(セゴヴィアに捧ぐ)……………マヌエル・ボンス
 (ハ) ホ短調舞曲……………エンリク・グラナダス(一八六七—一九一六)
 (ニ) 物語……………イザーク・アルベニス(一八六〇—一九〇九)

第二夜(十月二十七日・日曜日)

- 一、(イ) ソナティナ……………マウロ・ジュリアーニ(一七八〇?—一八三〇?)
 (ロ) 主題と變奏……………フェルディナンド・ソル(既掲)
 (ハ) カステリアの組曲(セゴヴィアに捧ぐ)……………モレーノ・トルロバ
 フレリニード
 アラーダ
 ブルレスカ
- (ニ) エヴィカシエン……………フランシスコ・タルレガ(既掲)
- 二、(イ) プレリニード……………ヨハン・セバスティアン・バッハ(既掲)
 (ロ) アルマンド……………同
 (ハ) サラバンド……………同
 (ニ) クーラント……………同
 (ホ) ガヴルット……………同
 (ヘ) グラシニーズ……………ビーター・チャイコフスキー(一八四〇—一八九三)

休憩

- 三、(イ) セヴイリアーナ(セゴヴィアに捧ぐ)……………ホアキン・トリーナ(既掲)
 (ロ) ト調の舞曲……………エンリック・グラナダス(既掲)
 (ハ) カデイス……………イザーク・アルベニス(既掲)
 (ニ) 小夜樂……………同
 (ホ) セヴイリア……………同

第三夜(十月二十八日・月曜日)

- 一、(イ) 練習曲……………フェルディナンド・ソル(既掲)
 (ロ) 小夜樂……………フランシスコ・タルレガ(既掲)
 (ハ) ソナティナ(セゴヴィアに捧ぐ)……………モレーノ・トルロバ
 アルレグレット
 アンダンテ
 アルレグロ
- 二、(イ) サラバンドとメヌエツト……………ゲオルグ・フレデリック・ヘンデル(一六八五—一七五九)
 (ロ) プーレ……………ヨハン・セバスティアン・バッハ(既掲)
 (ハ) メヌエツト……………フランツ・シュニベルト(一七九七—一八二八)
 (ニ) カンツォネータ……………フェリックス・メンデルスゾーン(一八〇九—一八四七)

休憩

- 三、(イ) ソナタ・ロマンティカ(シュニベルトに捧ぐ)……………マヌエル・ボンス
 アルレグロ
 アンダンテ
 アルレグロ・セリオーズ
- (ロ) 舞曲……………エンリック・グラナダス(既掲)
 (ハ) トルレ・ベルメハ……………イザーク・アルベニス(既掲)

セゴヴィア氏演奏曲目解説

武井守成

此大ギタリストの演奏曲目について出来得る限り正確詳細な解説を行ふ事は元より私の望む所である。然しながらセゴヴィアが帝國劇場に送り來つた曲目は作品番號さへ記されて居ない至極簡單なもので、曲目の半ばは果して孰れの曲を指して居るのか判断がつかない上に、愈々此稿の校正刷が出来た時に、セゴヴィアから全曲目を變更すべく通知し來つた爲、唯一夜にして再び稿を改める事を餘儀なくされ、結局不満足な上に不備な解説しか出来なかつた事は甚だ遺憾千萬である。尙ギター音楽の今日に到る推移とセゴヴィアの地位とについては前月號本誌に掲げたので併せて讀んで戴ければ幸である。

第一夜 (十月二十六日・土曜日)

一、(イ) 西班牙のうかれ者 (ソル)

十八世紀末から十九世紀の初め、所謂ギター音楽の黄金期には幾多のギターヴィルトゥオーゾ、作曲家が現れた

なる場合に於ても對照され且嘆稱された。フェルディナンド・ソルは十六歳にして既に驚くべきギター演奏上の技能を得、十七歳にして歌劇の作曲を行ひ而も上演された。千八百九年彼が英京を訪れた事は此國の音楽界に大センセーションを捲き起した。歐大陸が夙にギターを正當に理解して居たに拘らず、英國のみは表面的には兎に角實際には殆んど無智であつた。彼は倫敦フォルハーモニック・ソサィティのコンサートに獨奏を行ふ異常の名譽をもち、且ジョージ・ホガースをして「彼は天下無敵の演奏を以て聴衆を驚倒せしめた」と叫ぶに到らしめた。此曲はソルの作品第十五番の一、十六小節の主題を冒頭として四つの變奏と一つのミヌエトをもつ小變奏曲である。曲は極めて平易な手法を以て書かれて居るが一般奏者には比較的親しまれない。それは其旋律にも和音にも特に所謂「ヤマ」が無いからで、奏者としては甚だ生かし憎い曲の一つである。然し斯う云ふ曲の演出にこそセゴヴィアの頭腦の明敏さがよく窺はれるであらう。(ソルの出生年月は千七百七十八年二月マドリットに於て、千七百八十年二月バルセローナに於て、と云ふ兩説があつて明でない。が千八百三十九年七月巴里に永眠した事は確實である。)

が、其内西班牙のソルと伊太利のジュリアーニとは奏者としては勿論、又作家としても斷然他の追従を許さなかつた。そしてジュリアーニの理智とソルの感情とは如何

(ロ) 小夜樂 (マラッツ)

ホアキン・マラッツは一八七二年バルセローナに生れた。此地で初等の音楽教育をうけ、後に巴里コンセルヴァトールに赴いてド・ペリオに師事し、遂にピアノニストとして一流の大家と認めらるゝに到つた。アルベニスの晩年の作品についての最初にして正しき發表者であると云はれる。此曲は原名は西班牙風小夜樂。タレガ及ガルシア・フォルテアの編曲が出版されて居るからその孰れかによるのであらう。マラッツの死亡年は明でないが一八九三年迄の行動が判つて居り、而も二十世紀には入り得なかつたらしい。

(ハ) 舞曲 (トルロバ)

作家モレーノ・トルロバに就いては遺憾ながら全然知る事が出来ない。然しながら彼は近代のギター音楽にとつては忘れられぬ人物である。彼の公にしたギター曲は其數に於て少ないが、然し孰れも西班牙の香の高いもので、而もタレガやフォルテールとも趣を異にして居るものである。此舞曲は恐らく「カステリアの組曲」中の第三樂章であらう。ホ長調八分の三拍子。極めて短いが可憐な美しさをもつた愛すべき小品である。

(ニ) アルレグロ・トランクエロ (バガニーニ)

不世出の大ヴァイオリニスト、ニコロ・パガニーニに就いては、其ヴァイオリンに對する名聲があまりに高い爲に、ギターリストとしての一面は殆んど知られて居ない。假令知る人はあつても其技能が果して如何なる程度のものであつたかに關しては先以て知る事がない様である。然しながらギター音楽に關する信頼すべき文献によれば彼のギターリストとしての技巧は確に第一線に立ち得る程優れたものであつたらしい。若し彼がヴァイオリニストとして斯くまでに高い名聲を博し得なかつたとするも、彼は明にギターリストとして當時黄金期にあつたギター音楽に不朽の名を残したであらうと云はれる。彼はヴァイオリンとギターとの二部合奏(或はヴァイオリン獨奏ギター伴奏)の曲を相當多く書いたが又ギター獨奏曲についても筆をとる事を忘れなかつた。然し彼の筆に動かされるギターは決して上乘の取扱ひをうけては居ない。孰れかと云へば平凡である。唯其平凡な作品からも彼がギターのテクニクについて正しい理解をもつて居る事が首肯される。

(ホ) 練習曲 (タルレガ)

所謂ギター音楽の黄金期が過ぎた後西班牙に新浪漫樂派が生れた。フランシスコ・タルレガ(一八五四—一九〇

九) は其樹立者であり、黄金期のソル、ジュリアーニに比すべき巨星である。世界的なギター音楽衰微時代にあつて、ギターの祖國西班牙のみにはタルレガを中心に數多の作家が現はれ、新らしきギター音楽の爲に萬丈の氣焔を擧げた。之が十九世紀後半から二十世紀初頭にかけての出來事である。タルレガは従來のギター奏法に工夫を加へ、演奏上の可能範圍を著しく擴大した。そして之を基礎として、數多の清新なる作品を公にしたが、それ等は曾てソル、ジュリアーニ等の踏み入らなかつた境地を開拓して居る。最諒解し易い一例を擧げて見れば其低音部の動きが古典樂派と浪漫樂派とは全然赴を異にして居る。今日世界の三大ギターヴィルトオーゾとして知られるリョベット、ブヨール、セゴヴィアの内、前二者は孰れもタルレガの高弟であり、セゴヴィア亦直接彼に師事した事こそ無いが、其奏法は勿論タルレガのそれを基調として居る。タルレガのエストゥディオも其數少くないので果してどの曲を選ぶのか不明である。ヒズ・マスタース・ヴ

イスに吹込まれ、十月日本ビクターから賣出されたトレモロのエストゥディオであるかも知れない。若しさうであるならばギターのトレモロ奏法の極致を窺ふ事が出来る。尙此曲は原名を「アルハムブラの思出」と稱へる事が萬誤りない事を信じて居る。若しセゴヴィアの云ふ如く、リニートの爲の曲を別に編んだものであれば謹んで海容を乞ふ次第である。ハイドンのメヌエツトはニ長調交響樂(ブライトコフ舊番號十四番)のそれでセゴヴィアは原調のままギターに移した。

を附加へて置く。

二、(イ) フリーガ (バツハ)

(ロ) ガヴァット (同)

(ハ) サラバンド (同)

(ニ) ブーレ (同)

(ホ) メヌエツト (ハイドン)

セゴヴィアが送り來つたプログラムにはバツハの四曲がリニートの爲に書かれたものの様に記されて居るが、私には其點に疑問をもつものである。何故ならば恐らくは彼が自身若しくはタルレガの編曲に成り且出版されたそれを奏するのであらう事を豫想するが故で、然りとすれば四曲ともにリニートの爲に書かれたものではないのである。フリーガはヴァイオリン獨奏の第一ソナタのそれでタルレガの編曲。ガヴァットは同じくヴァイオリン獨奏(無伴奏)の第六ソナタの第三樂章で原名は「ロンドのガヴァット」ホ長調の原調のままセゴヴィアに依つて編曲。サラバンドはヴァイオリンの無伴奏の第二ソナタ(ニ長調)のそれで、セゴヴィアの編曲、ブーレも同一ソナタ中のそれ、編曲もセゴヴィアである。以上は私見である

三、(イ) ファンダンギリオ (トリナー)

ホアキン・トリナー(一八八一—)は近代の西班牙樂壇を代表する作家の一人である。グラナドスとアルベニスとが併び稱せらるゝ如く、デ・ファリアとトリナーは好對照をなして居る。そして此二人が共にギターの爲に曲を書いて居り且自らギターを奏するらしい事は更に興味深い。此ファンダンギリオはセゴヴィアにデディケートされ、セゴヴィアによつてシャットから出版され、又ヒズ・マスタース・ヴイスに吹込んだセゴヴィアのレコードが最近日本ビクターから賣出された。西班牙風のもの憂い而も享樂的な感じが濃厚に現はれた美しい曲である。私は此トリナーのファンダンギリオをデ・ファリアがドビラシの墓に捧げたあの親しみ深いギター獨奏曲と共にギター音楽への珍らしくも貴い貢物として永久に残したいと念じて居る。

マヌエル・ボンズについてはメキシコ人であり且同國の音楽院の校長であらうと云ふ事を曾て巴里のルヴェー・ミュージカルが書いたのを記憶するに止まる。其作品についてもセゴヴィアによつてシヨットから出版された六つの外には知る事が出来ない。然しながら其作品の或ものはボンズが充分注目に値する作家である事を語り、而も可成りに大膽なモダニズムを主張する事を教へる。茲に演奏されるものはセゴヴィアによつて編曲された「メキシコ風の三つの民謡」(アレグロ、アンダンテ、及アレグロ)の内の一つであらう。そして元來民謡を主題として居るので前述のモダニズムは之に認める事は出来ないが、すべてに於て彼が近代の佛蘭西音楽に傾いて居る事を示して居る。

(ハ) 亦短調舞曲 (グラナドス)

エンリク・グラナドス・イ・カンピナ (一八六七—一九一六) が西班牙近代の最大作家である事は改めて云ふ迄もあるまい。人々は彼を「西班牙のショパン」と呼び、「驚くべき色彩樂家」と稱へ、「氣稟高き作家」と謳つた。彼の存在は西班牙樂界にとつての一大光明であつた計りでなく、又世界樂壇にとつても一大異彩であつた。従つて

獨逸潜航艇の一撃の下に海底の藻くづと消えた汽船サセックス號が此大家を同じ運命に伴つたとの報導は世界の音楽界への一大衝撃であつた。此曲のギターへの編曲者はガルシア・フルテアであらう。

(ニ) 物 語 (アルベニス)

イザーク・アルベニス (一八六〇—一九〇九) はグラナドスと並び稱せられる作曲家で且つピアノニストであつた。西班牙の郷土的色彩の濃厚なる點に於てはグラナドスよりもより顯著なる作家として認められる。彼の作品はブヨール、リヨベットからも屢々演奏される。此「物語」は「西班牙風前奏曲」と記されて居る通り練習曲風の簡単な手法を以てデリケートな感情の表現に成功して居る。中間部にははれる物靜かなオクターヴの動きは特に美しい。恐らく此小品はすべての聴者を魅了するであらう。



第一夜 (十月二十七日・日曜日)

一、(イ) ソ ナ タ (ジュリアーニ)

ギター音楽史上ソルと併んで最強大な光を放つて居る巨星は彼マウロ・ジュリアーニである。彼が伊太利ボローニャ市に呱呱の聲をあげたのは大凡千七百八十年頃と云はれる。彼の演奏上のテクニックは全く驚異そのものであつた。伊太利一のヴィルトゥオーゾと認められたのは齡二十に達する前の事であり、歐大陸巡遊を企ててあらゆる演奏家中の頭目と謳はれたのも其後幾何もなかつた。彼がハイドン、モツシュルス、フムメル、デアベリ、マイゼーデル等當時高名の音樂家と親交を結んだ事は彼の天賦の才を一層光りあらしめ、其演奏上の技能はベートフマン、シユポールから眞に認めらるゝに到つた。ベートフマンが「ギターはそれ自身すでに小なるオーケストラなり」と云つたのは恐らくジュリアーニを知つた後の事であらう。作家としての彼は演奏家としての彼よりも更に偉大である。管絃樂を伴ふギターの大同伴樂を初め幾多の大作が公にされた。他の樂器を結んだ室内樂には驚

くべきものが多數ある。フムメル、モツシュルス等と親交のあつた彼がギターとピアノとの二部合奏曲を多く書いたのも極めて當然の事であつた。彼の作品約三百、若し彼を眞に研究せんとすれば一生を通じても尙時少き恨みがあらう。彼の死亡年月は明でないが千八百三十六年以後である事は確からしい。茲に演奏されるソナタ、ナは作品第七十一番の「三つのソナタ、ナ」中の一つであらう。勿論ジュリアーニとしては極めて小さいもので彼の作家としての全幅を窺ふ事は出来ないが然しセゴヴィアの卓越せる技巧はジュリアーニの片鱗をよく知らしむるであらう。

(ロ) 主題と變奏 (ソル)

之も作品番號が記されて居ない爲明瞭でないが恐らく彼が最も多く演奏するもので且つヒズ・マスタース・ヴァイスのレコードに吹込み日本ビクターが賣出して居るモツルトの「魔笛」中のアリア「O cara amonia」を主題とする作品第九番のそれを演奏するのではあるまいか。此曲

は導入曲と主題と、そして五つの變奏とから成立つ。レコードによつて知らるゝ通り、セゴヴィアの演奏は批判の餘地なき迄に完全であるが然し如何なる理由によるか、彼はレコード計りでなくコンサートに於ても常に導入曲を省いて居るらしい。セゴヴィア・エディクションによつてロメロ・フェルナンデスから出版されて居る曲譜にも導入曲は省略されて居る。奏法上のテクニクからは第一第四の兩變奏を、解釋の美しさからは第二第三のそれをセゴヴィアの爲に推稱したい。尙セゴヴィアのレパトリリーの内には此他にソルの「主題と變奏(練習曲)」と云ふのがあるから或は之を奏するのも知れないと云ふ事を御斷りして置く。ソルについては第一夜曲目一の(イ)参照ありたい。

(ハ) カステリアの組曲 (トルロバ)

元來此名を以てシヨットから出版されて居るものはファンダンギリオ、アララダ、ダンツの三つから成立つて居る。然るにセゴヴィアから通知して來た此曲の内容はブレリニード、アララダ、ブルレスクとなつて居て甚だ其意を得ない。が私の想像を卒直に述べるならばブレリニードは單獨にシヨットから出版されたもの、アララダは此組曲中のそれ、ブルレスクは矢張り單獨に出版されたセ

レナータ・ブルレスカではないかと思ふ。(但し此終りのものは書き違ひで「ブルガレーザ」の事かも知らない。)兎に角之等の曲はトルロバが近代佛蘭西音樂、殊にドビラシーの影響を著しくうけて居る事を示して居る。セリナータ・ブルスカ(道化た小夜樂)の如きはラヴェルのおもかけをさへ現はして居る。

(ニ) エヴカシオン (タレガ)

私はタレガの作品にして此名をもつたものを知らない。タレガの作品の殆んどすべてが出版されて居る今日、若し此名をもつたものがあるとすれば必ず見出される筈であるが、それが無い處を見ると、或は意外な題名をもつたものではないかと思はれる。私はあらゆる曲についてそれらしいものを見出すべく務めたが不幸徒勞に終つた。孰れの曲であつてもよい。それによつて大タレガの片影を窺ひ得るならばそれを以て満足すべきであらう。タレガについて第一夜曲目一の(ホ)参照ありたい。

二、(イ) プレリニード (バッハ)

(ロ) アルマンド (同)

(ハ) サラバンド (同)

されるか、それは極めて興味の深い事である。

(ニ) クーラント (同)

(ホ) ガヴオット (同)

(ヘ) グラシニーズ (チャイコフスキー)

バッハの五曲についてはセゴヴィアはリニード獨奏を原曲とする旨記して來たが、第一夜同様私はそれに疑ひをもつものである。其理由は茲に繰返さない。但しブレリニードは正にリニード獨奏のハ短調で、セゴヴィアによつてニ短調にアレンジされたものに相違ない。アルマンドはセゴヴィア・エディクションによればクラヴィコード用のハ短調組曲の第二樂章である。サラバンドが第一夜のとすれと同一であるか否かは明でないが、若し異なるものとすればリニードの手に編まれたものであらう。クーラントはヴィオロンチエロの無伴奏のハ長調の第三組曲(此當時のスイトとソナタとの間には殆んど區別がなく此組曲も亦ソナタとも呼ばれる)の第三樂章でセゴヴィアはイ長調に移して居る。ガヴオットが第一夜曲目のそれと同一か否か之も不明である。若しセゴヴィアの通知の通りバッハの五曲が皆リニードの爲に書かれたものであるならば恐らくそれは近頃セゴヴィアによつて編まれたものであらう。最後にチャイコフスキーの曲を見出すのは珍らしい。此北歐の大樂人の小品がセゴヴィアから如何に表現

三、(イ) セヴィリアーナ (トリリーナ)

ホアキン・トリリーナの此曲は未だ出版されて居ない様で従つて之に就いて何等記す事が出来ないのは遺憾である。トリリーナについては第一夜曲目三の(イ)参照ありたい。

(ロ) ト調の舞曲 (グラナダス)

グラナダスのト調の第五番舞曲はリニード又はフルテアによつて編曲されたものを用ふるのではないかと思ふ。グラナダスについて第一夜曲目三の(ハ)参照ありたい。

(ハ) カデイス (アルベニス)

セゴヴィアのレパトリリー中一般に最喜ばれるもの一つである。名高い西班牙風小夜樂でガルシア・フォルテアの編曲に成るものを用ふるのであらう。

(ニ) 小夜樂 (アルベニス)

單にセリナータと記されてあるので斷言は出来ないが恐らく「グラナダ」の題名をもつそれであらう。冒頭高音部を伴奏として動く中音部の旋律が極めて美しい。編曲者は前曲に同じ。

(ホ) セヴィリア (アルベニス)

恐らくガルシア・ファルテアの編曲を用ふるのであらう。(他に出版はされないがタムレガの編曲に成るものがあるらしい。)題名セヴィリアで曲種はセヴィリアーナ(早ら三拍子の舞踏)である。第一夜の曲目三の(ニ)に

第三夜 (十月二十八日月曜日)

一、(イ) 練習曲 (ソル)

ソルのエストディオは其数少くない上に、セゴヴィアは練習曲風のもを曲目に掲げる時に原名に無關心に「練習曲」と記す事を敢てするから、全く豫想を許さない。ソルについて第一夜曲目一の(イ)参照ありたい。

(ロ) 小夜樂 (タムレガ)

タムレガの曲中、單に「セレナータ」の名をもつものは無い。私の豫想を許されるならば「有名なる小夜樂」と註される「アラビア風狂想曲」ではないかと考へる。若しそれが當つて居るとすれば之は大なる喜びである。何となれば此狂想曲はタムレガの代表作の一つとして知られるものだからである。タムレガについて第一夜曲目一

於て述べた如く、アルベニス(Albéniz)は西班牙の郷土的色彩の濃厚な作家であるが、茲に併べられた三つの小品はそれを現實に物語るであらう。

(ホ)参照ありたい。

(ハ) ソナティナ (トルロバ)

此ソナティナは千九百二十四年にマドリッドのダニエルスから出版されたもので、アルブレグレット、アングァンテ、アルブレグロの三樂章から成立つて居る。第一樂章はヒズ・マスタース・ヴェイスによつてレコードに吹込まれ、十月日本ビクターから賣出されて居るから既にセゴヴィアの演奏を之によつて聽かれた方もあるに違ひない。此曲には特に革新的な手法も近代的な和音も見られないが、然しギター奏法の上から見れば如何にも適法に書かれ、清い美しさに満ち満ちて居る。彼がドビラシーの影響をうけて居る事は此曲からも看取出来るが、同時にギターのテクニクについて極めて正當な理解をもつて居る事が肯

かれる。此曲はセゴヴィアに贈られて居る。

二、(イ) サラバンドとメヌエツト (ヘンデル)

サラバンドの編曲者は明でないが、メヌエツトはタムレガのアレーンデに成るものを用ふるであらう。

(ロ) プーレ (バック)

第一夜曲目に載つたものと同一であるか否か明でないが若し異なるものとすればセゴヴィア以外の手によつて編まれたものであらう。

(ハ) メヌエツト (シューベルト)

シューベルトがギターを愛するに到つた動機は極めて面白いが今茲に之を述べる事を避ける。彼はギターの爲に優れた曲を書いた。そして其使用したギターは今日もウァーンのシューベルト博物館、其他に保存されて居る。茲に演奏されるメヌエツトはギターの爲に書かれたものではないが然し如上の意味に於て感興が湧く。

(ニ) カンツォネータ (メンデルスゾーン)

タムレガによつて編まれ、イルデフアンソ・アリエールから出版されたものを用ふるのであらう。ヘンデル、バッハ、シューベルト、メンデルスゾーン等の古典的な優雅な音楽がギターによつて奏せられる時、其眞生命が如何

に表現さるゝか、一に來聽さるゝ各位の自由なる批判にまつものである。

三、(イ) ソナタ・ロマンティカ (ボンス)

「ギターを愛せるフランツ・シューベルトに捧ぐ」と記され別に「セゴヴィアの爲に」と肩書がつけられて居る。アルブレグロ・モデラート、アングァンテ・エスプレッシヴィヴォ、アルブレグロ・ヴィトヴェ、アルブレグロ・ソントロップ・エ・セリオの四樂章の内第三樂章を省いて奏されるらしい。初めにセゴヴィアから通知された曲目には此作家の「主題變奏及終曲」と「第三ソナタ」とが加はつて居たのであるが、變更された曲目にそれが省かれたのは遺憾に堪えない。ボンスの近代味は此「主題變奏及終曲」及「第三ソナタ」中に最多分に認められ、セゴヴィアの演奏旅行に於て各地に種々噂されたものだからである。此ソナタ・ロマシテカは忌憚なく云へばボンスの個性が充分に認め得られないものである。其手法は極めて平易で且其旋律の如きも何等取立て、云ふべきものはない。ワグナーの或ものを思ひ起すメモロディーに到つては、ワグナーに捧ぐる場合に於て或は首肯されるかも知れないが、シューベルトに對しては諒解しがたいものである。とは

云へ此曲は確に美しい。恐らく一般聴者からは此夜のプログラム中最印象に残るものとなるかも知れない。唯惜しむらくは、四樂章の内最望ましい第三樂章が省かれる。尙第四樂章の終結に近く二十七小節に亘つてつゞけられる和絃の連続は表現の厄介な部分であるが、セゴヴィアは恐らく最良のコンディションに於て之を通過するであらう。

(ロ) 舞 曲 (グラナダス)

前二夜に於てホ短調、ト長調の二つの舞曲を奏したセゴヴィアは此夜又グラナダスを出したが今度は單に「舞曲」とのみ記されて全然見當がつかない。グラナダスについては第一夜曲目三の(ハ)参照ありたい。

(ハ) トルレ・ベルメハ (アルベニス)

セゴヴィアの好んで常に曲目中に加ふるもの、一つ。西班牙情調の豊かな美しい曲である。小夜樂で、ガルシァ・フォルテアの編曲によるのであらうが、第六絃はDに下げて所謂準變調子で奏せられる。アルベニスについて第一夜曲目三の(ニ)参照ありたい。



アンドレス・セゴヴィア小傳

セゴヴィアも、愈々十月の二十六日から帝劇に現はれる事に成りました。彼はスペインの貴族です。ギターの技術は全く獨學で極めました。而も驚く可き事には、和聲、作曲法、その他の理論を完全に會得して居ります。十四歳の時からギターを弾き始め、數年の研鑽の後この樂器の専門家と成る決心をいたしました。彼は特に古典樂派の音樂に造詣が深く、バッハの解釋に於いては、世界の如何なる他の樂器の大家にも劣りません。宏大な規模と複雑した内容を有するパイプ・オルガンのための作品も、セゴヴィアがギターに由つて演奏しますと、また新しい微妙な音彩と明暗を啓示します。最近、パリの音樂院は彼のためにギターのクラスを新設しましたが、教授の嚴選に於いて、世界に知られたこの最高の音樂院の中に、彼のクラスが新設された事は、彼の稀世の天才を證明して餘りあるものです。

世界的 テ ナ ー

ミゲエル・フレタ氏帝劇出演

十一月廿三日(マチネー)廿六日(夜)

帝劇は西班牙が生んだ三人の世界的大藝術家を日本に招聘しました。第一は本年一月來朝したカスターネットの女王アルヘンティーナ女史で、第二は只今來朝中のギターの大家アンドレ・セゴヴィア氏であります。

扱て第三は十一月下旬來演するテナーのミゲエル・フレタ氏であります。

ミゲエル・フレタは西班牙の著名な音樂家の一人で、今日では逝けるカルーゾの後繼者として彼以外に彼に優るテナーはありません。

彼は一八九七年に西班牙のフエスカに近いアルベルト・

ドウ・シンカに生れました。彼は幼い頃から音樂の天才で外國ではよくあることです。彼も十歳の時には音樂競演會に出て、御褒美など頂いたものですが、其後彼は聲樂の勉強を、初めにバルセルナで、後には伊太利のミラノで致しました。

一九一六年にミラノで開いた極く内輪の音樂會で、若い聲樂家の彼は伊太利の音樂批評家や教授達からその天稟を認められました。それで直ちに歌劇「フランチェスカ・ドウ・リミニ」の難しい主役に扮するやう契約され、その作曲者であるザンドナイ氏から成功を祝されました。

昭 和 四 幸
 帝 劇 十 一 月 與 穴
 專 屬 男 優 劇

十一月一日初日 每夕四時(初日に限り三時)開演

小笠原長生子尉述作(東京日日新聞掲載)
 小野賢一郎脚色(主婦之友掲載中)

一番目 奥村五百子 三幕六場

舞臺裝置 和田三造案
 大槻式雄裝置

女子洋樂部員

中幕 攝州合邦辻 一 幕

竹本連中

二番目 河竹默阿彌作

三人吉三巴白浪 四幕六場

島居清忠舞臺裝置

竹本重壽太夫社中
 杵屋寒玉社中

一、二階席白券六圓五十錢 同青券五圓 三階席八十錢



秋の樂壇を飾る二樂聖



氏アイザゴセ・スレドンアのータギ

氏タレフ・ルエガミのルーノテ

尾上梅幸	松本幸四郎	澤村宗十郎	守田勘彌	尾上高藏	助高屋幸藏	助田高屋	坂東玄助	市川高麗	澤村宗之助	澤村雄之助	澤村敬三	尾上梅朝	中村芝鶴	特別加入	片岡仁左衛門
------	-------	-------	------	------	-------	------	------	------	-------	-------	------	------	------	------	--------